

〔山岳遭難〕2017年の発生状況 発生件数・遭難者数は過去最多(6/21公表)

警察庁は21日、昨年(2017年)の山岳遭難の発生状況を公表しました。

昨年1年間における山岳遭難の発生件数は2583件、遭難者は3111人、うち死者・行方不明者は354人で、発生件数と遭難者数は統計の残っている1961年以降において最多となりました。

警察庁によると、山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断、不十分な装備での体力的に無理な計画など知識・経験・体力の不足などから発生しており、遭難を未然に防ぐためには、登山計画書の作成・提出、危険個所の把握、的確な状況判断などに留意する必要があるとしています。

■全国の発生状況 ※カッコ内は前年対比

- ・発生件数：2583件(+88件)
- ・遭難者数：3111人(+182人)
 - 死者・行方不明者：354人(+35人)
 - 負傷者：1208人(+75人)
 - 無事救助：1549人(+72人)

〈上記のうち、単独登山者の事案〉

- ・遭難者数：1069人(+81人)
 - うち死者・行方不明者：210人(+26人)

■都道府県別発生件数 ※上位3道県まで

- ・長野県：292件
- ・北海道：236件
- ・山梨県：161件

■遭難者の発生状況

【目的別】

- ・登山：2223人(+122人)
- ・山菜・蜜採り：380人(-6人)
- ・その他：508人(+66人)

【態様別】 ※上位3件まで

- ・道迷い：1252人(+136人)
- ・滑落：524人(+26人)
- ・転倒：469人(-2人)

【年齢別】

- ・20歳未満：189人(+15人)
- ・20～29歳：261人(+67人)
- ・30～39歳：240人(-51人)
- ・40～49歳：378人(+12人)
- ・50～59歳：455人(+34人)
- ・60～69歳：741人(-5人)
- ・70～79歳：669人(+104人)
- ・80～89歳：165人(+4人)
- ・90歳以上：13人(+3人)